



光了寺



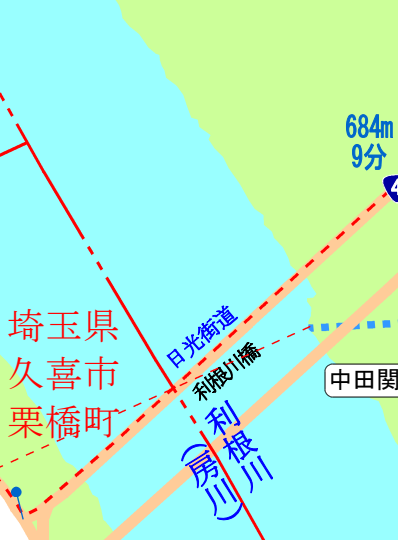
鶴峯八幡神社

⑦ 光了寺
 光了寺の創建は大同年間（806～10）弘法大師空海が開山したのが始まりと伝えられています。当初は高柳寺と称し栗橋にあり、文治5年（1189）には源義経を追って愛妾静御前が奥州平泉（岩手県平泉町）へ行く途中、この地で義経の計報を聞きました。静御前は高柳寺（光了寺）で義経の菩提を弔い、同じ年に自らも亡くなったと言われています。光了寺には静御前が京都神泉苑で雨乞いの舞を舞った時に使用した「蛙蟻龍の舞衣」を始め、御前の守本尊、義経から拝領した懐剣、鏡などが保管されています。松尾芭蕉の「いかめしき音やあられのひのき笠」の碑がある。
 「当寺むかしは武州高柳郷にありて高柳寺と号し、天台宗なりしが、建治年間（1275～78）親鸞越州より関東に遊歴のとき高柳郡に至り、高柳寺に寄宿す。時の寺主興悦は宗派異なりといへども深く親鸞の徳を感じ、宗門を転じて浄土真宗となり、興悦を改めて西願と称し、寺号を光了寺とあらたむ。…」(日光道中略記) 建治年間（1275～78）とあるが、親鸞は弘長2年（1262）に亡くなっているので、建保年間（誤り）。



つきあたりに案内板がある

④ 房川渡と中田関所跡
 日光街道で唯一の関所と、渡船場の両方があった。
 利根川のうち、当地と対岸の栗橋の間の流れの部分「房川（ぼうせん）」とよび、渡船場を房川渡、関所を房川渡中田関所といった。
 案内板に將軍の日光参詣のときに設置された船橋の絵があり、川に60～70艘の船を並べその上に板を渡して橋としたもので、3ヶ月かけて造ったというが、將軍日光参詣のときだけの船橋で、役目が終了するとすぐ取り壊されたという。
 その後関所は対岸の栗橋川の水辺に移されたので、一般には「栗橋の関所」の名で知られるようになった。
 関所は明治2年（1869）に廃止された。二艘の渡し船と五艘の茶船の渡船場の方は、大正13年（1924）に利根川橋が完成するまで続けられた。



埼玉県 久喜市 栗橋町

⑥ 鶴峯八幡神社
 養和元年（1181年）の創建と伝えられる。源頼朝が相模国鶴岡八幡宮の分霊を上伊坂（現在地の中田）に勧請したもので、新田義貞が北条時高追討の際戦勝祈願したという。
 永代太々神楽（だいだいかぐら）が伝承されており、境内に神楽殿がある。
 中田宿の鎮守。当時は、現在の利根川河川敷にあり、明治44年（1911）、河川改修に伴い、町とともに現在地に移転した。

中田宿の助郷
 各宿場町では、参勤交代や公用の人々を運ぶために人馬を常備する必要があったが、これを助けるためには近隣の村々が定助郷に指定された。中田宿の場合は、中田新田・鳥喰い・坂間・新久保・茶屋新田・大曾・飯積である。

⑧ 願正寺
 開基は、茨城県小川町の幡谷信勝で、十六代、善了の時、古河市中田の阿弥陀堂に移し、願正寺と改めた。慶長年間、幕府の命により栗橋宿を開発した、池田鴨之助の招請により1614年、善了は、寺基を当地に移した。

② 中田宿跡
 「川除堤 宿の入口にあり、長千百三拾五間、江戸より右の方を宮前堤と唱へ、左の方を町裏堤、また新田堤と唱ふ」(日光道中略記)であったが、明治末年からの利根川改修工事で堤をはじめて宿並が北に移動し、元の宿は利根川橋下の河原になってしまった。大正から昭和20年代までに全て移転した。
 「左右貨座敷軒を並べ、禿ちよろお白粉(しろい)の丸ばちやちらちら見ゆる。其前を通り町の出はづれの掛茶屋に小休(こやすみ)して、今見たる旅かせぎの娼妓(しょうぎ)を思ひ出でて「あだし野や馬に喰はるゝ女郎花(おみなえし)」(上野下野道の記)

「当宿にも茶船五艘ありて宿内百姓の内より八人つゝ一日代り渡場小屋に詰る。此茶船、元は式艘なりしを天和2年(1682)堀田筑前守領主のとき増を請て五艘にせしと云」(日光道中略記)



32 栗橋宿～中田宿
 茨城県古河市
 利根川橋～中田宿
 (歩行距離 2487m 31分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://tochigikanko.web.fc2.com/JZE00512@nifty.ne.jp>



願正寺

8 中田宿
 「地名の起り、開発の年代詳ならず、往古は陸羽街道にて、今の宿より上、元屋舗といふに人居あり。其頃の道筋は鷲森より古河城、今の川手門に出、大手門の内、桜町観音寺の辺を通り雀神社のあたりより野渡村を経て野木宿に達せりといふ。元和7年（1621）永井信濃守古河城主のとき、中田、上伊坂、小中主、古町を合わせて中田一宿として今の地に移し、同10年日光道中の宿駅と定む」(日光道中略記)
 中田宿は、元和10年（1624）に江戸から8番目の宿場として設けられました。
 古河藩が管理していた古河三宿（中田・古河・野木）の一つである。南（江戸側）から順に、下町（下宿）・仲町（仲宿）・上町（上宿）、および船戸町から構成された。江戸をたつて1日目は越ヶ谷宿あるいは春日部宿に泊まり、2日目に中田宿に入る。
 天保14年（1843年）の『日光道中宿村大概帳』によれば、本陣・脇本陣は1軒ずつ設けられ、旅籠が6軒、茶屋などや遊郭もあり賑わった。宿内の家数は69軒、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠6軒、人口は403人（男169人、女234人）、駄賃・賃銭・荷物一駄・乗掛荷人共70文、軽尻馬1匹47文、人足1人36文であった。利根川の河畔に530文にわたってあり、対岸の栗橋宿との間を渡船が結んだ。ほとんどは農家との兼業であった。両方を合わせて、栗橋・中田宿と呼ばれ、1つの宿駅とされた。旅人は陽の昇る頃に旅立ち、宇都宮宿をめざして行った。
 大正元年（1912年）、利根川改修工事により宿場が河川敷になるため、町の大半が川から離れた日光街道・中田松原に移転を始めた。このときの河川改修工事は昭和5年に竣工したが、その後も洪水は頻発したため、追加工事が行われることになり、昭和20年代に残された上町（上宿）もすべて移転した。

⑧ 願正寺
 開基は、茨城県小川町の幡谷信勝で、十六代、善了の時、古河市中田の阿弥陀堂に移し、願正寺と改めた。慶長年間、幕府の命により栗橋宿を開発した、池田鴨之助の招請により1614年、善了は、寺基を当地に移した。

15 中田一里塚
 日本橋から15里の一里塚。痕跡が全くない。

③ 松並木
 ここからJRの踏切まで直線道路。日光道中分間延絵図によれば、このあたりから松並木がはじまり古河宿まで続いていた。

⑤ 静橋
 中田宿北の入口に架かる小さな橋は静御前の伝承がある

① 中田関所跡
 渡船場と関所は、寛永10年（1633）に栗橋に移された。